リアルとデジタルを活用して地域活動を活性化

地域住民が地域とつながりやすくなる仕組みづくり

埼玉県和光市　酒巻　智和

1. 研究の背景

(1) 地域コミュニティの関係の希薄化

現代社会は地域コミュニティの関係性の希薄化が問題となって久しい。関係性の希薄化は様々な問題の原因となっており、都市部への人口集中、地域の担い手不足などが相まってその問題は増大していくばかりである。また、地域課題への対応は、より専門性の高い知識、技術が行政に求められ、解決に至る道のりの険しさも増している。

一方、和光市のような都市部には、住民に多様なスキルやバックグラウンドを持つ人材が多数含まれており、また、住民以外の企業活動も多彩なものになっている。そういった様々な人材が地域に溶け込み、地域活動に参加し、その能力などの資源を活かすことが出来れば、様々な地域課題の解決につなげていくことが期待できる。また、現代であれば ICT 技術を利用して繋がりを構築することも必要だ。いかに地域住民が地域コミュニティへの関心を持ち、地域活動への参加を促していくかが課題といえる。

このような課題を解決するために地域住民がより地域活動に参加しやすく、それぞれの能力を活かすことができる仕組みを整える必要がある。また、その仕組みが継続する中で、住民間の活動の連携がさらなる連携を生み出し、地域活動がより豊かになることで地域課題への有効な解決策につながっていくものと考えられる。

(2) 和光市の住民の地域活動への参加の現状

先に述べた課題については、和光市も当然に例外ではない。和光市は、都心から 17km ほどの距離に位置し、人口は 83,962 人（令和 5 年 1 月 1 日現在)、行政面積は 11.04 ㎢であり、日本全国 792 の市部のなかでは 11 番目に小さい市である。特に鉄道に関しては、私鉄、地下鉄の合計 3 路線が乗り入れており、通勤、通学、レジャーなどの移動に利便性が高いこともあって、今後も人口増加が予想される。換言すれば、年を経るごとに、人材増加、多世代での人材の多様化が進むことを意味している。

一方、住民の地域活動への参加の現状はどうか。和光市市民意識調査（平成 16、21、24、令和元年）によれば、平成 16 年の時に市民活動・地域活動（以下、地域活動等）への参加について、参加不参加がほぼ半数だったのに対し、平成 21 年度以降にあっては、約 7 割の住民が地域活動等への参加をした経験がなく、急減に地域との関係性が薄れつつあることが明確（図 1）になっている。この傾向は、特段の手段を講じなければ減少の方向に進むことは容易に想像できる。

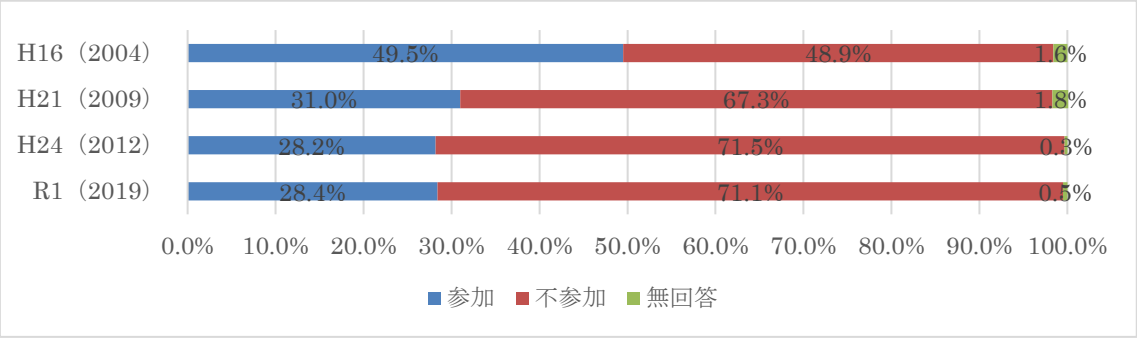


図 1　市民活動・地域活動への参加率　和光市市民意識調査のデータより筆者作成

次に、参加している地域活動等について見てみる。自治会、学校教育活動など、地縁的な地域活動等に参加している住民が多いことがわかる(図 2)。また、公民館サークル、地域福祉活動なども比較的近隣住民が参加することが多いと想定されることから、地域活動等に参加する約 8 割の住民は居住地の近隣で活動していることが推測される。以上のことから、活動の中心となるのは居住地の近隣が中心となるといえそうだ。

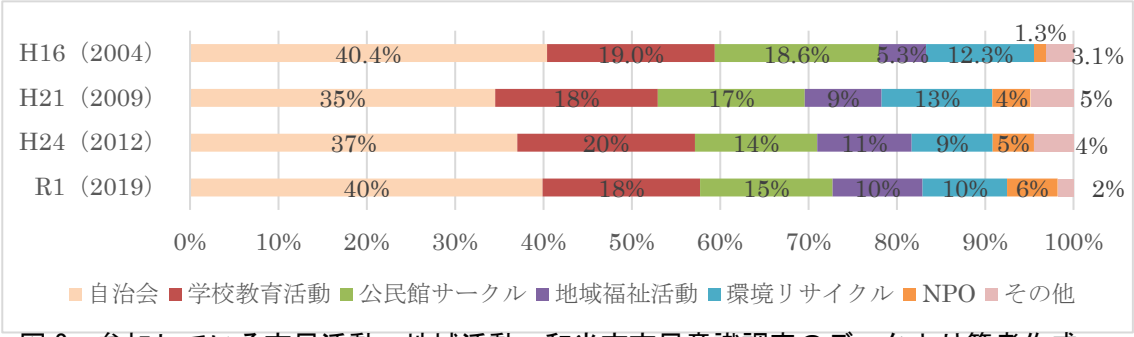


図 2　参加している市民活動・地域活動　和光市市民意識調査のデータより筆者作成

一方、地域活動等に参加への意識はどうか。図 3 は地域活動等に参加しないと回答した人への、地域活動等への参加の意向についての問いである。なお、平成 16 年度はこの設問がなくデータがない。平成 21 年度以降、参加意向は徐々に減少傾向にあるが不参加と回答した人のうち、約 5 割の人は地域活動等への参加意向を持っていることがわかる。

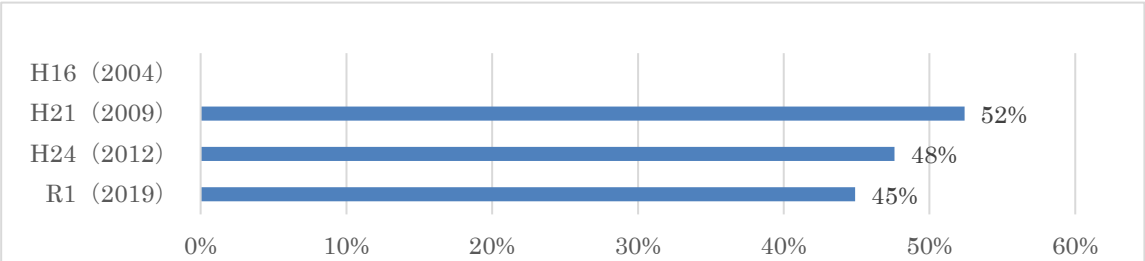


図 3　市民活動・地域活動への参加意向　和光市市民意識調査のデータより筆者作成

では、地域活動等への参加をしない、できない理由（図 4）はどのようなものであろうか。③、④以外の理由については個別の事情が強く反映されているため、本人の状況が変化しない限り、地域活動等への参加を期待することは難しいといえる。逆に、④の理由で参加をしていない人に対しては、情報を適切に届けることができれば参加を地域

活動等への参加を期待できる。また、③の理由で参加をしていない住民に対しても、どれほどの地域活動等への情報を把握したうえで判断したのかは大変不透明である。そのため③、④を理由として不参加を判断している住民に対しては、適切な情報を提供することで、地域活動等への参加を期待できるといえるのではないか。いかに地域活動等の情報を届けるかが重要と考えられる。

また、②、③以外の理由の住民においても、改めて地域活動等の情報を得ることで地域活動等への興味関心が芽生え、考え方が変わる可能性はゼロではない。そういう意味でも、地域活動等の情報の周知の方法について考える必要がある。

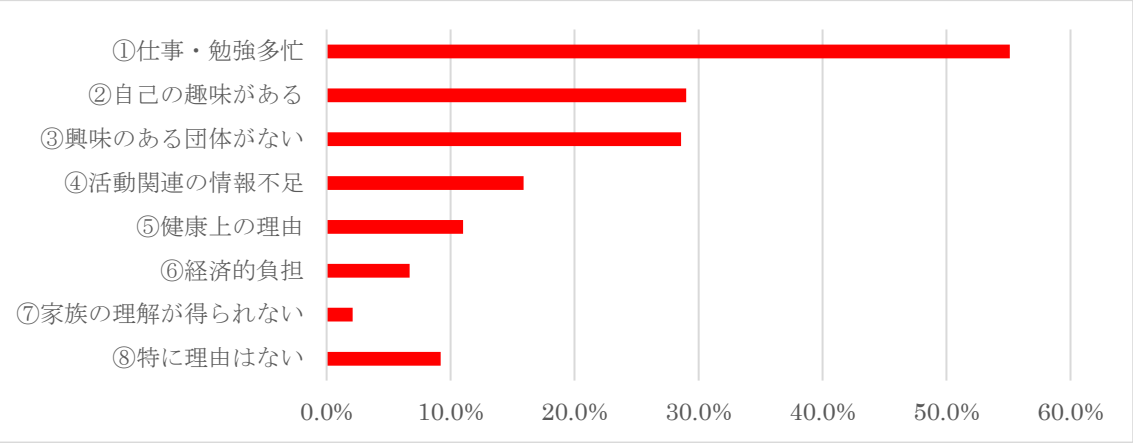


図 4　地域活動等に参加できない理由　和光市男女共同参画意識調査（令和 2 年）のデータより　筆者作成

(3) 和光市における地域活動等への参加のきっかけづくりの現状

ここでは、和光市で展開する地域活動等の状況について事例を 2 つ紹介する。

一つ目は、和光市で地域活動等を行っている団体について紹介する。

和光市では和光市で地域活動等を行っている団体（以下、活動団体）を、和光市野ＨＰの中に、専用サイト（わこらぼ）を設けて、活動など紹介を行っている。

現在 66 の活動団体が登録（別添資料表 1）をしており、各活動団体の紹介文が掲載されている。まちづくりやスポーツなどの分野があり詳細な分類を含めると 20 以上の分野があり、多様な地域活動が展開されているところである。

そのうちの№60（別添資料表 1）の和光フードネットワーク準備委員会は令和 4 年 1 月 27 日に設立された比較的新しい活動団体である。活動内容はフードパントリー事業、こども食堂を開設したい人をサポートするこども食堂ネットワーク事業を展開している。筆者もスタッフとして参加した子供食堂ネットワーク事業では、子供食堂の開設を目指す住民の熱意溢れるイベントで、参加者の充実した表情からその思いが伝わってきた。

また、代表者の方にイベントボランティアが十分なに員数が集まるかどうか不安だったという話を聞きき、スタッフ集めに労を割いたことを認識した。

活動を行う上では、参加者の募集、運営のためのボランティアの確保が重要といえる。いつもの繋がりの中だけで、参加者やスタッフを確保するのは限界がある。新たな参加

者を増やしつつ、活動の枠を広げるためにも、より集客や、活動に参加する人たちを集めるための効果的な周知方法が必要といえる。

二つ目は、和光市では地域活動等を盛り上げる取り組みとして「みんなの活動マルシェ」というイベントを紹介する。協働をテーマとして、和光市を拠点として、地域をより良くしようと取り組んでいる活動団体等が活動紹介、活動体験、物品の販売を通じて、活動を周知するイベントなっている。市役所の広場に活動団体が集い、年に 1 回開催している。令和 4 年度は 5 月に開催し、多くの活動団体と来場者でにぎわった。

一方このイベントを来場者の視点で、来場及び地域活動等の情報取得のしやすさの視点で考察してみよう。まず、利点として、会場が市役所広場であるため、会場が広く、活動団体が一か所に集結しているため、来場者にとっては複数の活動団体を一度に訪れることが可能だ。課題となる点として、会場が市役所であるだけに、居住地によっては来場しにくい住民がいる可能性がある。また、イベントブースという限られたスペース、状況であるため活動団体によっては十分な活動内容の説明の難しい場合もあると感じた。

この取り組みは、住民の地域活動等のへの参加を広げていくには非常に有効な取り組みだと感じている。一方、課題点に対応するための、地域ごとに参加しやすくなる形での地域活動情報が住民に伝わる仕組みや、いつでも情報にアクセスできる仕組みがあることが必要になると考えられる。

(4) 解決したいテーマ

以上の現状の和光市の実態を踏まえ、情報の開示の方法、情報の伝わり方が地域活動等への参加を促していくうえでは重要であり、活動に参加する市民を増やすためには、活動に関する情報をいかに届けるかが大切なポイントになってくるものと考える。次項から、他行政の事例を検証しながら、施策提案につなげていきたい。

2. 他自治体の事例の検証

(1) しながわすまいるネット（品川区地域振興部地域活動課（以下、品川区））

品川区では総合実施計画において、施策の柱の 1 つに「誰もがつながる魅力ある地域社会の実現」を掲げ、10 年後のめざす姿を実現するための基本的な考え方として「地域課題を解決する自発的・自主的な活動を支援する」ことをミッションの一つとして掲げている。ここでは、そのミッションを実現するためのツールとして運営しているすまいるネットについて、聞き取り調査を行った内容を交えて取り上げる。

従来のシステムをフルリニューアルし、令和 3 年 4 月より運用しているすまいるネットは品川区おいて活動団体の活動内容やイベント情報などを集約、発信、各活動団体による情報の随時更新などが可能なシステムとなっている。インターネット上で誰でも閲覧できるようになっているため、活動団体と地域活動に参加したい住民ともにアクセスしやすいツールとなっている。

グーグルマップと連携した地図上に、活動団体の活動場所がマーカーで表示されるため、住民は自己が参加しやすい活動団体を視覚的に選択しやすい仕組みとなっている。また、カテゴリーごとに分類された検索機能により興味関心に応じた活動団体の検索も可能だ。システム導入にあたり、2 クリック以内で地域活動等の情報に行きつけるようにするという工夫をしており、筆者もサイトを閲覧した際に、情報に到達しやすいと感じた。また、登録に必要な条件を①活動団体の運営規則を定め、②品川区内で活動する、③構成員が 3 人以上の活動団体としている。活動内容は趣味の活動団体でもよく、登録のハードルを下げ、新たな地域活動を始めやすくしている。

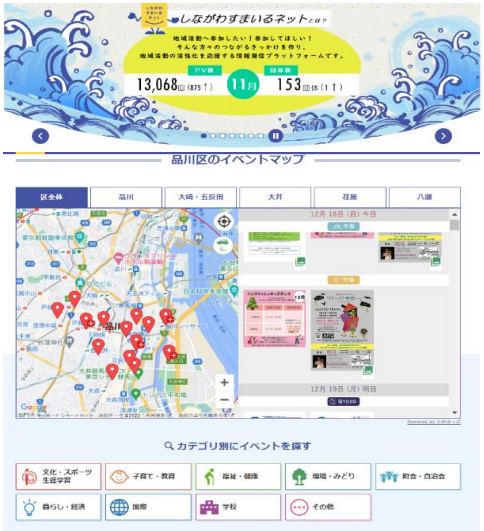


図 5　しながわすまいるネット

そういった工夫もあり、導入直後 81 団体であった登録活動団体数が 2 年ほどで 153 団体までに増加している。すまいるネットに登録している活動団体からは活動団体活動への利用者が増えたという声を聞いているという。新規に登録した活動団体の登録理由として、他活動団体からの積極的な登録の薦めがあり登録したなど、口コミで増えていく実績からも、その有効性が高いことがうかがえる。また、すまいるネットに掲載されている活動団体へのテレビ取材の申し込みがあるなど、地域活動と住民をつなげる効果だけでなく、地域のプロモーション的な効果も出ている。

さらに、すまいるネットの有効性を保つための品川区の取り組みも、見逃せない。担当が活動団体の活動現場に足を運び、顔の見える関係性を努めて築くように心がけているのだという。リアルな繋がりを一つずつ構築していくことで行政との信頼関係を構築し、すまいるネットへの登録を増やしていくといった取り組みが大切と、担当の方の話が印象的だった。筆者としてはデジタルによる情報提供は現代社会において必須であるが、ネットワークを広げていくためには品川区が取り組むようなアナログな地道な活動も欠かせないと感じた。

今後、品川区ではシステム改修を予定している。その際に、現在の登録活動団体に対して、登録を継続の有無について確認する予定とのことだ。意図としては、登録しても更新などのない活動団体が存在しており、その割合が増加することで、情報の新鮮度、有効性が減少する恐れがある。その結果として掲載情報の信頼度が下がり、登録活動団体、閲覧者共に減少し、最終的には利用されなくなることを避けるためだという。すまいるネットの新陳代謝もしっかり管理することで、サイトの有効性を保つため取り組みも特筆することだと感じた。

このしながわすまいるネットように、インターネットを活用した、いつでもだれで

も情報にアクセスでき、つながれる仕組みは、地域活動への参加を促すうえ、非常に有効な手段と言えるのではないか。

(2) おがわのぐるり市（埼玉県小川町：小川町役場政策推進課、小川町 SDGs まち×ひとプロジェクト）

埼玉県小川町はユネスコ文化遺産にも登録された和紙や有機農業が盛んなまちである。ここでは、令和 2 年度より「小川町 SDGs まち×ひとプロジェクト（通称：6S）として小川町役場が町内外の有志の人たちと共にまちづくり取り組んでいる事業のうち、令和 4 年度に実施したイベントの事例をもとに、住民活動、地域活動の積極的周知がどのような効果を創出したかを見ていく。このプロジェクトには筆者自身も令和 3 年度活動より参加をしており、これから考察するイベントの実施については筆者自身もスタッフの一人として参加している。

小川町が取り組む「小川町 SDGs まち×ひとプロジェクト」は、住民参加型のプロジェクトで、町の資源や雰囲気などに魅力・関心を寄せ、まちをより良くしていきたいと考える方々が集まる「OGAWA 6S プラットフォーム」を構築している。そのプラットフォームに参加する方々が中心となって、様々イベントの開催などを通じて、プラットフォームに参加するメンバーやイベントに参加した町内外の人とがつながることで、小川町の魅力を町内外に発信していくことを目的とした活動を行っている。

令和 4 年度は町内外の人を対象に「おがわのぐるり市」というイベントを開催した（別添資料図 1)。ここでは町内を拠点に活動を行う NPO 法人（以下、「NPO 法人」）が参加したイベントエリア（イベント内では「紡ぐ市（つむぐいち)」と称した。以下「紡ぐ市」）の事例を考察していく。筆者は紡ぐ市の責任者を担当した。

紡ぐ市は、NPO 法人の活動内容や日頃の活動の様子を来場者に展示、説明することにより、NPO 法人同士、NPO 法人と来場者の交流やの繋がりづくりの場として企画した。また、紡ぐ市開催中に NPO 法人の代表者同士が現在の活動内容や今後の展望などを話し合う座談会（イベント内では「語る市（かたるいち)」と称した、以下「語る市」）開催した。詳細は後述する。

先に述べた、地域活動の積極的周知については①NPO 法人の活動紹介のためのブースの設置、②語る市がそれにあたる。

まずは①NPO 法人の活動紹介のためのブースの設置について述べていく。

小川町には NPO 法人が 17 存在している。このイベントではこのうち 10 法人に参加した。NPO 法人の中には活動実績が 30 年を超える法人や、設立間もない法人が含まれている。今回参加いただくうえで各法人にイベントの趣旨などの説明を行ったが、長期間活動している法人同士でも存在を知らないという法人も多くあった。

いずれの法人も小川町の地域課題に取り組んでおり、小川町をよりよくしていきたいという気持ちは同じである。そういった法人同士が相手の存在も知らないままである状態は多くの機会損失生み出していることに着目し、NPO 法人を一堂に会することが、繋がり及び活動の発展のきっかけづくりになることを期待した。

これまで、小川町において NPO 法人が集まる機会がなく、今回のイベントにより初めて顔を合わせる法人も少なくなかった。まずは、同じ場所で顔を合わせることで、互いに話しやすい場が生まれ、同時に多くの NPO 法人とつながることが可能となる。そうやって、いままで繋がっていなかったヒト、モノ、コトが繋がり、また繋がりが見えることで好循環を生み出すことを目的の一つとした。

結果として、NPO 法人同士や地域住民との繋がりが強まり、団体同士の協力や新たな参加者を獲得することで、NPO 法人の活動をより活発化させるというコンセプトのもと企画を実行したものである。

紡ぐ市のイベント開催中、それぞれの NPO 法人は時間を見つけて、他の NPO 法人ところへ行き、挨拶や話をしている様子が見て取れた。実際どのようなことを話していたかについてはアンケート等を取らなかったため、詳細は不明ではある。

しかし、筆者自身が NPO 法人の代表者から話を伺う中で、「こんなイベントを待っていた、とてもよい企画だ」、「また次回もやってほしい」などの感想があった。その意見の中でもとりわけ印象深かったものは次のコメントである。「NPO 法人名前は前から知ってはいたけど、何をやっている法人か知らなかった。他の分野でも頑張っている人たちがいることがわかり、励みになった。参加してよかった」というご意見をいただいたことは、このイベントの目的を大きく果たせたのではないかと実感する内容であった。次に来場者の感想を紹介したい。来場者のアンケートも取っていないため、筆者が個人的に話をした来場者からの感想となる。「はじめは NPO 法人が集まるイベントは面白くないと思っていたが、語る市での話や出展者の方と興味深い話ができて非常に面白かった」というものであった。この来場者は NPO 法人の活動について、これまで知らなかったことを知ったことをきっかけに、今後の地域課題や地域活動への向き合い方が変化したことを意味している。この来場者は、初めは NPO 活動そのものに興味のない属性の住民であったが、イベントがきっかけで地域活動等への価値観に変容が起こったといえる。今後、地域活動に参加する住民として十分に期待できる事例だ。

次に②語る市について述べる。語る市は参加 NPO 法人 10 法人中 8 法人の代表が集まり、テーマに沿いながら、それぞれの活動内容などを NPO 法人同士、来場者に向けて話すものだ。

図 6　語る市の様子

来場者からの質問に答えながら 90 分間にわたり語る市は実施された。後日、参加したある NPO 法人の代表の方から聞いたのだが、語る市で活動内容を話したことがきっかけとなり、小川町の企業と事業を一緒に行っていくことになったのだという。実はこの 2 者は本イベントスタッフでもあり半年間、一緒にイベントを準備してきた仲間だったにも関わらず、合同で事業を行う要素をお互いに持っていることを知らなかったのだ。これは、情報の

不足が招いた機会損失を大いに実感する事柄でもあった。NPO 法人が積極的に語り掛けることが、これまでになかった新たな地域活動を生み出す結果に繋がっている。

①、②の取組みから地域活動の積極的な周知の有効性が確認できたと考えている。和光市においても、同類の取り組みである「みんなの活動マルシェ」を行っていることはすでに述べた。改めて、直接法人と住民が交流するといった取り組みの有効性が確実にあるということを実感した。また、積極的に法人の情報を届けることが、活動団体にとっても、住民にとっても新たな活動の契機になることが立証できたと考える。このようにイベントの効果を充実したものにするために、活動団体との関わりをより強く印象付けるような方法が有効であるといえるのではないか。

3. 施策提案

(1)「みんなの活動マルシェ～市民活動の現場で体験会～」

各活動団体の実際の活動をより深く理解するためには、実際の活動の現場を見ることが一番だ。百聞は一見に如かず、である。例えば、バスケットボールやバドミントンなどのスポーツ系の活動団体であれば体育館などで行うことが常だろう。バスケットボールであれば活動そのものは容易に想像ができるが、地域活動に参加するうえで重要な要素として活動団体の組織としての雰囲気というものもある。活動に継続して参加するためにはそういった感覚的な適合感も重要な要素と言える。そのためには現場に赴き、全体の雰囲気を感じる必要があるし、そうすることが最も自分に合った地域活動かどうかの判断ができるといえる。また、和光市の住民の地域活動への参加の現状で考察した、参加する地域活動等（図 2 参照）を踏まえると、居住地の周辺での参加が主になる。そう考えた場合、和光市においては各地域での活動情報の露出が重要と言えそうだ。

一つの会場に集まる開催方法の場合、そこに集約されていることで一覧性は高く、一度に複数の活動団体を知ることが可能となる。一方で、展示の方法により伝えられる情報が限られるというデメリットもあるだろう。また、その会場まで行く必要がある。高齢者や小さい子供を持つ人にとっては、その移動が難しく会場に行くことが難いことも考えられる。また、活動団体の内容によっては、イベントのブースという設えの中では活動内容が十分に伝わりづらい、もしくはできない場合もあることもある。そういった理由から参加をやむなく取りやめている活動団体も存在している可能性もある。

以上の考察から以下のイベント開催形式を提案したい。①各活動団体の通常活動場所に来場するよう、市内において分散した開催形態をとる。②一定の期間内、もしくは決めた日に活動をしてもらい、住民はタイミングを計り、興味のある最寄り活動団体の場所に赴き活動を見学、体験などをする。できれば、あらかじめ決められた期間に複数の活動団体が活動することで、イベントとして盛り上がり、注目度も高まるため、例えば 10 月の 1 か月間などのように期間を絞るとよい。①、②ともに、場所や開催日時を記載したパンフレット等を作成しておき、HP 上に公開、参加希望者はそれを見て興味ある活動団体のところに参加すれば、自己の都合に合わせて参加がしやすくなると考える。

このほか、イベントを盛り上げ方として、スタンプラリーと飲食店の特典を結び付け

るなど付加価値を高めれば、より訴求力のあるイベントになるだろう。

(2) 和光市版すまいるネットの導入

地域活動は年間を通じて行われるものもある。そのため、活動に関する情報は常に更新され、公開されていくことも必要と言える。そこで和光市版すまいるネットの導入について、和光市の概要でも整理した内容を踏まえて以下の運用方法、もしくは機能を備えたものを提案（図 7 参照）したい。

No.	機　　能
1	地図上に活動団体の拠点、活動及びイベント内容を表示する機能（別添資料図 3）
2	活動地域、分野別、イベント別の情報にアクセスしやすい検索機能
3	新規登録をしやすい運用（ネット申請、2 名から申請可能）
4	住民が持つスキルを積極的に地域に活かす（別添資料図 4）
5	新規、更新情報などの通知機能

図 7　和光市版すまいるネット機能一覧表

機能 1 は和光市の地図上に活動団体ごとの活動拠点を表示する機能である。活動場所が容易に視認できるため、都合の良い活動場所を選びやすくなる。

機能 2 は検索機能を地図と連動させ、検索したいカテゴリーをクリックすることで、活動団体やイベントなどが地図上に表示されるようにする。

機能 3 は活動団体が登録しやすいように、ネットでの登録、および 2 名以上であれば、登録できるなど、登録しやすい運用を取り入れる。定期的に、登録更新等の通知をすることで、情報更新をしなくなった団体の登録を解除することで、情報が常に更新されていくようにする。

機能 4 は住民の自己のスキルの積極的地域提供として、住民が持つ様々な能力を地域活動の場で活かすための仕組みを取り入れたいと考える。例えば、何かの得意分野、特技を持つ人が、「こんなことができます」というサイト上で PR をして、それを見た人がその能力を発揮してもらうように依頼するというものである。スキルがあるが既存でスキルを活かせる活動団体がない、とはいえ、新規で活動団体を立ち上げるほど仲間がいない、もしくは活動団体を組織するという形を好まないという意向もあると考えた。あくまで持っているスキルの地域還元という形での地域活動への参加があり得るのではないかという想定の中での提案となる。こうした仕組みがあることで、個人の地域活動への参与の可能性が広がり、さらには、地域課題解決の手法の一つとなりえるのではないだろうか。

機能 5 として、活動団体の新規登録、イベント開催などの更新情報を通知する機能である。すまいるネットに登録することでスマホなどに最新の情報を届ける。提案（1）のイベントに参加した市民に登録を促し、情報が届けば、地域活動への興味関心を継続して刺激することになり、2 回目、3 回目の地域活動への参加が期待できるようになる。

現代社会においては ICT を活用した情報の集約、発信は欠かすことのできないものであるし、活用した仕組みが当然期待されるものと考える。こうした、仕組みは整備するところがゴールではなく、それを維持継続していくことが重要となる。常に機能の有効

性を維持し、定期的に機能の見直しや更新を実施して行く必要があるだろう。

(3) 提案のまとめ

リアルで興味関心を強く刺激し、デジタルで興味関心を持続させる。その組み合わせによる相乗効果により地域活動への実際の参加を促していくという構成の提案とした。

4. おわりに

全国地域リーダー塾に参加するにあたり、和光市まちづくりの資源として何を捉えるかを考えた時、住民こそがまちの資源だと考えた。それ以降、このことを念頭に置きながら、日々の業務や小川町の活動で、地域活動への参加のきっかけを作るための仕組みをついて考え、それを実践できる場を模索してきた。

業務では地域活動を元気に取り組んでいる高齢者を地域ラジオに出演してもらい、日々の活動についてインタビューをするというプロジェクトが実現した。リスナーが、地域活動への参加を促すことを目的の一つとしている。また、出演した方がいきいきと地域に戻っていく姿を見るのは何よりうれしいことだ。今後も、出演者が決まっており、新たな地域活動の契機になることを多い期待しているところである。

また、小川町での活動から、小川町の和紙工芸作家の方と知り合い、その方を和光市に和紙工芸の講師として招くことになった。このことが和光市と小川町の文化交流の端緒になり、住民の暮らしが豊かになるかもしれない。そんななかで、自分自身が地域活動に少しずつではあるが、関わり始めていることを感じている。

このような意識の中で日々を過ごす中で、地域との関係が自然と広がり、自分自身の地域活動の領域が広がって行くことを実感した 1 年だった。どうすれば地域との関わりに関心を持ち、継続していけるかを自分自身で試してきたと言っても間違いない。自分自身の価値観が変わり、地域活動へ関わり方に対してポジティブ変わったことを感じている。

地域との繋がりを生み出す仕組みの構築をすることで、たくさんの人たちが地域活動に参加し、一人でも多くの人が地域コミュニティともに、その人の人生が豊かになっていくことを願ってやまない。

【参考文献・引用ホームページ】

・和光市統計図表
・和光市第 5 次総合振興計画
・和光市民意識調査（H16、H21、H24、R1）
・和光市男女共同参画意識調査（R2）
・和光市わこらぼ HP　https://www.wakokyodo.net/
・おがわのぐるり市パンフレット
・しながわすまいるネット　https://www.shinagawasmile.net/

参　考　資　料

リアルとデジタルを活用して地域活動を活性化
地域住民が地域とつながりやすくなる仕組みづくり
埼玉県和光市　酒巻　智和

別添資料表 1　和光市令和 3、4 年度わこらぼ登録活動団体一覧より筆者作成

活動団体名		活動分野	活動内容	活動場所	人数	HP 等
1	和光民舞を踊る会	文化	日本の民俗芸能の指導や出演を通じて交流する	市内中心に各地	14	無
2	みにこん会	芸術	乳幼児とその保護者を対象としたコンサートの定期的開催	市民文化会館	8	有
3	みにこん会・こども音楽ドットコム	学術	こどもとその保護者を対象としたコンサートを定期的に開催する	市民文化会館	8	有
4	和光国際交流会	国際協力	在住外国人の日本語学習支援	中央公民館など	34	有
5	和光消費生活の会	消費者保護	例会と講演会の開催、みんなのマルシェ参加	市内公共施設	6	無
6	和光市自治連合会	地域安全	地域自治会の連携を図り、住みよいまちづくりを推進する	各自治体の活動支援	約 16500 世帯	有
7	和光市環境づくり市民会議	環境保全	和光市環境基本計画に基づき、和光市の良好な環境の実現に向けて、施策を進める	市内	9	有
8	和光ボウサイ部	防災救援	防災を自分事にする啓発活動	特になし	11	有
9	はつらつ Tea　Time	福祉	高齢者の社会参加を促し、健康長寿につなげる	白子コミセン等公共施設	21	無
10	ＷＡＫＯゴスペル	文化	ゴスペルを歌う	下新倉小学校、公民館	14	有
11	和光市消費者活動団体連絡会	消費者保護	月１回の例会、消費生活展の開催	市役所会議室	6	有
12	新日本婦人の会和光支部	社会教育	女性と子供の生命を守る	市内各所	100	無
13	みんなで元気	福祉	高齢者介護予防支援、子育て支援など地域福祉の増進	市内公共施設	32	有

14	三小オヤジの会「オヤラボ」	子どもの健全育成	和光市第三小学校のＰＴＡや地域の方々との相互扶助の関係を築くための交流の場を作る	特になし	30	有
15	白子川と流域の水環境をよくする会	環境保全	向山親水公園の清掃と環境整備と生物観察	向山親水公園	22	有
16	新倉ふるさと民家園お話の会「いろりばた」	社会教育	お話し会の開催	新倉ふるさと民家園	5	無
17	和光・花樹林	まちづくり	市内公園等の草花の植栽及び管理・栽培した草花を活用したクラフト、料理等の紹介	市内公園等	17	無
18	和光音訳の会	福祉	視覚障害のある方に市広報などを音訳する	公共施設など	11	無
19	和光市の公共交通手段をよくする会	まちづくり	どのように工夫すれば、高齢者が公共交通を使って便利に外出できるかを考える	公共施設など	92	無
20	シューティングクラブ和光	スポーツ	射撃競技の普及と振興を目的に、ビームライフル、ビームピストルを使用した体験や試合を実施する	中央公民館	8	有
21	和光 3･11 を忘れない実行委員会	災害救助	東日本大震災の犠牲者、被災者へのエールを首都圏から発する	市内公共施設	9	有
22	原発といのちを考える会ＷＡＮ	環境保全	市民がエネルギー施策や原発について、主体性をもって判断、行動していくことを目指す。	市内公共施設	34	有
23	シネサロン・和光	芸術	自主上映会の開催、外部上映会のコーディネート	市内公共施設	8	有
24	和光市地域子ども防犯ネット	子どもの健全育成	ネットサイバー犯罪対策のための学習会や子ども防犯に関する学習会をはじめ、市内一斉パトロールなどの実施	市内	40	無
25	こども・みらい・わこう	子どもの健全育成	発達障害を理解する学習会の企画運営、こどもの健全育成、地域安全	市内	49	有

26	和光広沢インディアカ	スポーツ	インディアカの普及、リサイクル交換会、ランチ交流会	南公民館	15	無
27	地域公益推進機構	福祉	子どもの読み聞かせ、障害児の自助、自立支援など	市内、川越市など	13	有
28	オペラ彩	芸術	グランドオペラ上演、歌声カフェの開催	市民文化会館、アルコイリスカフェ他	33	有
29	WAKO100 人カイギ実行委員会	その他	和光市民 5 人をゲストに招き、インタビューをする	市内	6	有
30	いつでも・わこうマルシェ	まちづくり	特技、才能をもつ人が地域とつながる場と作り、交流を生み出すためのマルシェを開催する。	市内	5	有
31	白子大坂ふれあいの森の会	環境保全	樹木、湧水の保全、野草、花の保護、ふれあいの森及び周辺の清掃	大坂ふれあいの森及びその周辺	21	無
32	みどりのそよ風児童合唱団	芸術	清水桂の作品の継承と啓発	中央公民館	15	無
33	ムジカ・ドマーニ	芸術	メンバーの音楽性の向上と親睦、市民との交流をはかり、コンサートや発表会の開催	市内、および近郊	15	有
34	和光市古民家愛好会	まちづくり	伝統的季節行事の再現、古民家にふさわしい自主企画の開催など	新倉ふるさと民家園	59	有
35	グループ“ゆう”	芸術	琴、三味線などの合奏を楽しみ、公民館祭り、幼保園、高齢者施設などで演奏し地域との交流を図る	新倉コミセン	11	無
36	わこまち探検隊レディース	市民活動支援	町の情報発信、市民の交流イベントの企画	市内	6	無
37	和太鼓会　和光太鼓	芸術	和太鼓の稽古、演奏、教室の開催	南公民館	52	有
38	和光市生きいきクラブ連合会	福祉	高齢者の生きがいづくり、社会参加活動を通じて、福祉、長寿社会の実現に寄与する	市内	873	無

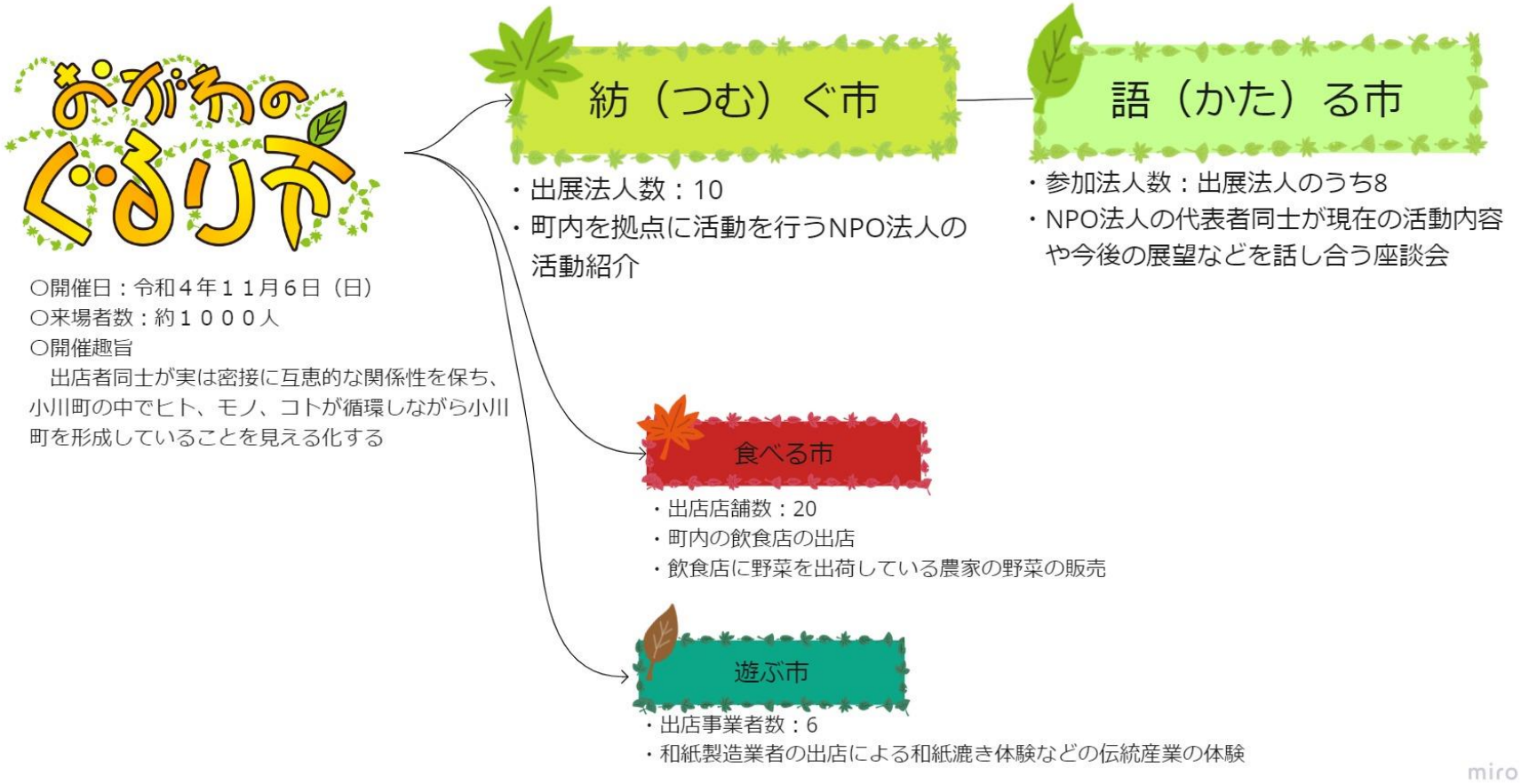
39	和光おもてなし隊	まちづくり	おもてなしに関する活動を通じて、あらゆる人たちと交流、ふれあい等を促進増進させる	特になし	72	有
40	ぽけっとステーション	福祉	介護保険、障害福祉サービス事業	当該活動団体事務所内（中央地区）	30	有
41	わこう子育てネットワーク	子どもの健全育成	子育て支援、子育て及び子供の育ちを地域社会で支え合うネットワークづくり	市内を中心に全国	72	有
42	気持ちは和会	福祉	高齢者を対象とした音楽鑑賞、若手演奏家支援、お茶会の開催	ＣＩハイツ集会所	108	無
43	年金協会　朝霞分会	文化	会員の福祉の向上と相互の親睦を図る	市内公共施設	417	無
44	和光・緑と湧き水の会	環境保全	環境の保全、子どもの健全育成、学術文化の振興、社会教育の推進、まちづくりの活動	富沢湧水、大阪・新倉ふれいあいの森	62	有
45	梶原悠未選手を応援するワ！！	スポーツ	梶原悠未選手の自転車競技によるオリンピック出場を応援、自転車競技を紹介する。	市内公共施設	30	無
46	分譲マンション地域ネットワーク	まちづくり	分譲マンション管理問題に関わる情報と意見交換会の開催、マンション管理・修繕等に関する情報・意見交換、アドバイス	中央公民館	13	無
47	和光テニス協会	スポーツ	テニス普及活動、協議を通じて市民の相互親睦を図る	市運動場、和光スポーツアイランド	400	有
48	本町小学校区地区社会福祉協議会	まちづくり	本町小学校地区の全住民を対象に、高齢者部会、こども子育て部会、地域交流部会、防災防犯部会が地域課題解決や地域住民の生活を支援する活動に取り組む	本町地区内	54	有
49	WA MUSIC FEST PROJECT	芸術	音楽フェスの開催を通じて、和光市に新たな音楽文化を創出することを目的に、音楽フェスの企画運営を行う	主にオンライン	5	無

50	和光ボードゲーム部	文化	ボードゲームを中心とした室内ゲームを通じて交流する	市内コミュニティカフェ、市内公共施設、オンライン	5	有
51	和光市婦人会	地域安全	市内のご湯時に参加協力	白子コミセン	200	有
52	和光白子文化の会	文化	「清水かつら」、「大石真」を顕彰し、次代に語り月、地域の共有財産として市内外に発信していく	白子コミセン	5	無
53	和光姉妹都市交流会	国際協力	主として姉妹都市ロングビュー市との交流	市内及びロングビュー市	42	無
54	和光市樹林公園野の花の会	環境保全	自然観察会やネイチャーイベントの開催、ＷＥＢＧＩＳ（花ＭＡＰ）の運営、和光市及び樹林公園の植物調査・記録・園内保護策の管理等	樹林公園及び和光市内	7	有
55	和光自然環境を守る会	環境保全	越戸川の環境保全、川まつりの開催を通じて、市民が自然に触れ、学ぶ環境啓発活動を行う	越戸川、赤池親水公園	36	無
56	和光市チーム SDGs	SDGs の啓発	SDGs の啓発、多文化多世代コミュニティの形成、地域課題の解決など	市内公共施設	15	有
57	ワーカーズコープ和光白子地域福祉事務所	福祉	放課後等デイサービス・生活サポート事業・個別生活支援事業	市内及び近隣	10	有
58	和光ラジオ体操会	スポーツ	ラジオ体操を通じて健康の維持向上、地域活動の要請応じて指導士の派遣	中央公民館	30	無
59	ララ・ジョイサークル	芸術	ウクレレを中心に他の楽器も随時取り入れて演奏、練習をする	中央公民館	10	無
60	和光フードネットワーク準備委員会	地域の食を支え合う活動	地域の食を支え合う活動、和光市内のこども食堂をネットワークする活動	不特定	6	有

61	身体障害者福祉会	福祉	会員相互の親睦を深める活動、イベント、運動会、祭りに参加	市内	42	無
62	和光社会福祉協議会	福祉	社会福祉法に基づき住民が主体的に関わる地域福祉を推進する	総合福祉会館、他事務所	300 活動団体	有
63	越後山・緑まちづくり推進協議会	まちづくり	越後山地区におけるまちづくり、イベント開催	越後山区画整理事務所内	13	無
64	クリード和光	福祉	障がい者生活介護の作業の一環として雑貨を作り、週１回施設の店頭販売を行っている。	生活介護施設「ぷらいまる」	55	有
65	わこうかめわこ（親の会）	子どもの健全育成	育てにくいと感じるこどもを育てている保護者をエンパワーする。自分に合った、学び方を知り好きなことを楽しめるようになる活動を行う	市内公共施設	12	有
66	白子小学校区地区社会福祉協議会	地域安全	地域の見守り活動	白子小学校区域	地域内市民	無

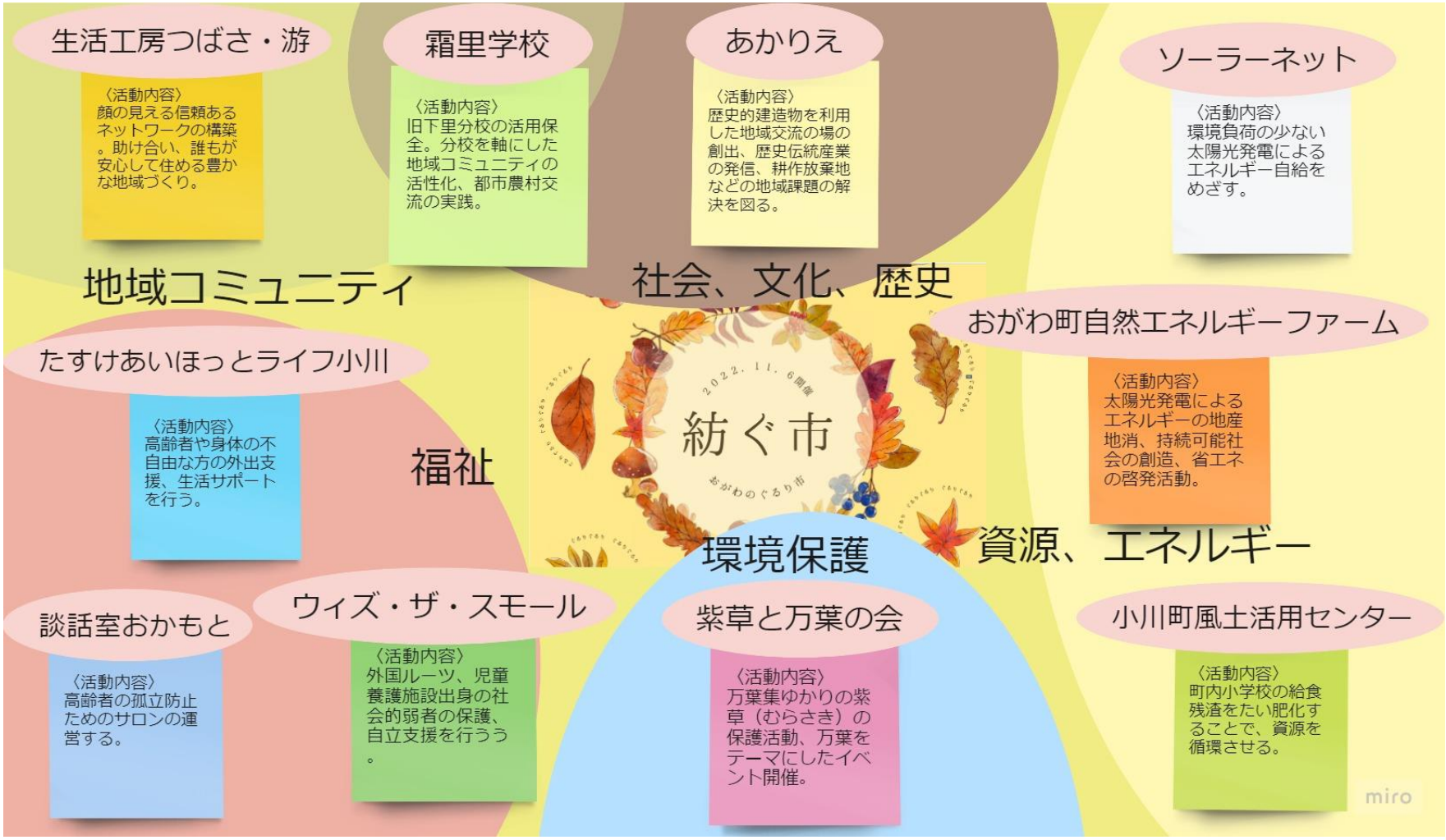
第 34 期野原ゼミ①　埼玉県和光市　酒巻　智和

別添資料図１　「紡ぐ市」相関図



第 34 期野原ゼミ①　埼玉県和光市　酒巻　智和

別添資料図 2　「紡ぐ市」相関図



第 34 期野原ゼミ①　埼玉県和光市　酒巻　智和

別添資料図 3　和光市版すまいるネット　機能 1　模式図

第 34 期野原ゼミ①　埼玉県和光市　酒巻　智和

別添資料図 4　和光市版すまいるネット　機能 4　模式図